

令和7年度 第4回ボッチャ交流大会競技規則

【大会の基本ルール】

基本的なルールは、本大会特別ルールを適用する。なお、特別ルールは以下のとおりである。

1. 障害のある方もない方も参加可能。障害によるクラス分けは行わない。
2. 3人1組のチーム戦とするが、交代要員として6名迄登録可とする。
3. 予選リーグは4チームを1グループとし、グループ内の総当たり戦を実施する。
決勝トーナメントは各グループの上位2チームで実施する。
4. 1ゲームは2エンドにより行う。（※予選リーグは引き分けあり）
5. 予選リーグはA～Hの計8リーグ（最大32チーム）で実施する。

【表彰】

1. 表彰は、決勝トーナメント終了後に行う。優勝・準優勝・3位・4位チームに対して賞状を贈呈

【勝敗】

1. リーグ戦の進め方

- ① リーグ戦は1リーグ4チーム、計8リーグで実施する。
- ② 4チームによる総当たり戦
- ③ 順位決定方法は、
 - (1) 勝利数
 - (2) 得失点
 - (3) 得失点同点チームによる直接対決の勝者とする。

※(3)でも勝者を決定できない場合は、1球のみのファイナルショット制を採用する。

キャプテンが指名した選手またはキャプテン自身が、その選手のボックスから投球を行う。

2. 決勝トーナメントの進め方

- ① 各グループ上位2チームで決勝トーナメントを行う。
- ② 1回戦、2回戦、準決勝、3位決定戦、決勝を行う。
- ③ 同点の場合は、1球のみのファイナルショット制を採用する。決勝戦のみ、追加の1エンドを行う。

【用具】

1. コートは、8m × 6mのサイズとする。
2. 日本ボッチャ協会公認球を使用する。
3. 計測器具として、コンパス及びメジャーを使用する。
4. 計時（タイマー）用具は使用しない。
5. その他、ランプ、スコアボード、赤青指示板を準備する。

令和7年度 第4回ボッチャ交流大会競技規則

【各担当の役割】

1. 審判長（競技委員長）：全体で1名
①大会の審判を統括し、競技進行について不明な点は審判長の決定に従う。
2. 主審（レフェリー）：各コート1名
①各コートの進行及び判定をする。
②違反行為があった場合、常に他のボールにぶつかる前に投球されたボールを止めるよう努める。
③ボールが動いた場合は、元の位置に戻し、相手チームの了解を求める。
3. 副審（ラインズパーソン）：各コート1名
①主にラインに関する違反について関わる。
②主審を補助する。（アウトボール回収、計測、反則など）
③主審の死角を補うため、主審の対角線上に立つ。
4. その他：交代要員1名

【試合開始前】

1. 各チーム初戦について、参加者に対する基本的なルール説明を各コートで行う（10分程度）
2. 試合に参加する2チームがコートに入り、残りの2チームはコート後方の椅子に控える（以降、試合を行わない2チームは同様にコート後方に控えておく）
3. 審判は、2チームを集め、お互いにあいさつを行う（「よろしくお願ひします」）
4. 代表者のじゃんけんにより、先攻（赤球）、後攻（青球）を決定する。
5. 赤チームが左枠のスローイングボックスに入り、青チームが右枠のスローイングボックスに入る。
6. 各チーム投球練習を行うことができる。審判がクロスにジャックボール1球を置いた後、各チーム6球の練習とする。

【試合進行】

基本的なルール（ゲームの進め方や得点方法等）は公式と同じである。反則については、基本的に取らないが、審判の指示・注意に従い、円滑な大会運営に協力すること。

1. 第1エンド、赤チームに「ジャックボール（白球）、プリーズ（どうぞ）」とコールする。ジャックボールは1試合2エンドのため、各チームの誰が投球してもよい。
2. 次に赤球、青球と順に1球ずつ投球し、次からは、ジャックボールに遠いチームから投球する。
3. 両チーム6球投球後、「ボールフィニッシュ」とコールし、得点「赤又は青○点」を告げる。
4. 「エンドフィニッシュ、ボールの回収をお願いします」と告げる。
5. 第2エンド、青チームに「ジャックボール、プリーズ（どうぞ）」をコールする。
6. 次に青球、赤球を順に投球し、次からは第1エンドと同様に行う。
7. 「ボールフィニッシュ」をコールし、得点を告げる。
8. 「エンドフィニッシュ、ボールの回収をお願いします」と告げる。
9. 「この試合、○対●で▲の勝ちです」を告げ、「マッチフィニッシュ」をコールする。

令和7年度 第4回ボッチャ交流大会競技規則

【計測】

1. 計測器具（テープメジャー、コンパス）を使用する。
2. 目測の場合、ジャックボールの真後ろに立って行う。
3. 選手にできるだけ背中を向けないようにする。

【その他】

1. 主な反則は、スローイングボックス（ライン）を超えた場合と、審判が投球指示をする前に投球した場合のみとする。また、車いすの車軸やランプの先端がラインを超えないこと。
2. 反則行為により、コート上のボールが動いた場合は審判が現状回復し、両チームの了解を得たうえで投球のやり直しをする。
3. 介助者が補助としてスローイングボックスに入り、助力を行うことはできる。
4. 補助者は選手と会話やサインなどで、コミュニケーションをとることができる。
5. けが、体調不良、欠席、遅参等によりチームの人数が2人未満となった場合、一人で、または他の者（介助者やスポーツ推進委員）を加えて競技を続行することができる。その際は、事務局と審判、他の参加チームの同意を得る必要がある。
6. マイボールを持ち込み使用することはできる。ただし、ジャックボールはセンターが用意したものを使用する。
7. キャプテンは、試合中にコート内に入りボールの位置の確認・助言等を行うことができる。
その場合は必ず審判に申告すること。
8. キャプテンは、試合中に点数の確認を行うことができる。その場合は必ず審判に申告すること。

【試合終了後】

1. 両チームを集め、試合結果を告げる（「この試合、○対○で○○（チーム名）の勝ちです（引き分けです）」）
2. スコアシートに審判のサインを記入する。